

水稻青枯現象発生当時の気象に関する 2, 3 の調査

船 橋 義 成

(九州農業試験場)

北九州地方における水稻青枯現象発生当時の気象を調べた。(発生盛期：昭和30年10月第2半旬)

当年稲作期間前半期は割合高温多照で好条件下に経過したが、後半は以下に述べる如きやや不良環境となり、本現象の発生を促す原因となつた。

(1) 9月下旬の22号台風は余り強くはなかつたが若干の損傷を与えた。(2) 気温は10月第1半旬までの高温より以後の低温への推移が著しい(特に最低気温において)。(3) 相対湿度は最高・最低・平均とも低く、

特に夜間の最高湿度が第2半旬は80%台にまで下つた。(4) 高気圧の影響で晴天日多く強い冷北風が吹続いた。(5) 蒸発に關係ある気象要素を綜合した蒸発指数を求めると、各地とも2日及び8~11日頃に大きく、またその頃は夜間の蒸発指数も大で、昼夜にわたり蒸発散を促進する条件下にあつた。(使用資料：福岡管区气象台、佐賀・飯塚両測候所、九州農試)

(原著は農業気象12巻に投稿予定。)